

クローズアップ

やまわき まち

山脇 真智 先生

医療法人社団向日葵会 まつしま病院
理事長・院長

プロフィール：

昭和 29 年 10 月 26 日生まれ

昭和 53 年パラグアイ国立アスンシオン大学医学部卒

専門：産婦人科

現住所：東京都江戸川区松島 1-41-29



「当時の院長、佐々木静子先生の、平等な考え方、女性の自立をサポートする姿勢に共感して、この病院に来ることにしました」

と、明るく快活に語る院長の山脇真智先生。その語り口はチャキチャキとした江戸っ子のようなでもあり、どこか西の方の柔らかな方言にも聞こえる。尋ねると、出身は高知県。その後、4歳から大学卒業後のインターンまでをパラグアイで過ごしたという。

山脇先生の家族は、政府が推奨する日本人定住農業移民として、昭和 33 年に同県内の人々とともにパラグアイ南部のイタツプア県に移住。その後カラグアタウに住まいを移し、両親は原始林を開拓しながら家族の暮らしを支え、7 人兄弟の 3 番目、長女の山脇先生も、家事をしながら学校に通い苦労の多い少女時代を送った。

「女だから料理や洗濯をしろさいと言われ反発してきました。早く自立したくて、兄弟にも自分のことは自分でやるように言って勉強していましたが、家族からは生意気だと言われていました」とかつてを振り返る。

無宗教であることをからかわれたことがきっかけでカトリックにも入信した。シスターのようになりたい、人を助けたい、自分にできることは何か考え、医師をめざすようになった。

産婦人科を選んだ理由については、「10 歳の時に生まれたばかりの弟を亡くしているんで

す。もちろん自宅での出産で、父が赤ちゃんを取り上げていました。その時はどうしようもありませんでしたが、あってはいけないことなのだと子供心に思ったことを記憶しています。それでこの道を選んだのかもしれませんが」と語る。



昭和 53 年 12 月にパラグアイ国立アスンシオン大学医学部を卒業。インターンを経て、昭和 55 年 4 月から熊本大学医学部産婦人科に 2 年間国費留学し、ここでは日本語にも苦労した。

昭和 58 年の結婚を機に夫と日本に渡り、東京医科歯科大学医学部産婦人科専攻生に。翌年双子の女の子を出産。子育てをしながら猛勉強を続け、日本の医師免許を取得。平成元年 6 月に東京医科歯科大学医学部付属病院産婦人科に入局を果たした。

「医師免許を取るのには本当に大変でした。ひらがなとカタカナは読めましたが、書く話すはダメ。教科書にかなをふり双子を育てながら、6 年かかりましたよ。でもそれはスタートで、それから 30 年全然休んでいません」と、苦労を苦労と思わせないほどの明るさで話す。

入局後は、取手協同病院（現 JA とりで総合医療センター）、東京都立大塚病院、石心会川崎幸クリニックで医師としての経験を積み、平成 8 年 7 月には賛育会病院産婦人科医長に就任。その後、総合守谷第一病院産婦人科部長、

キッコーマン総合病院産婦人科部長を歴任し、平成 25 年 8 月からまつしま病院院長、理事長を務める。



「まつしま病院」は、初代院長の佐々木静子先生が平成 3 年 8 月に「まつしま産婦人科小児科病院」として開業。佐々木先生の強い思いから、女性だけで運営、経営し、地域医療に貢献することを目的とした、女性と子どものための病院だ。現在も、非常勤医師に男性はいるものの、佐々木先生の意志を受け継ぎ、女性医師と約 100 名のスタッフで地域の人々の体と心の健康をサポートしている。

「病院の理念はスタッフ皆で共有し、日々の業務に当たらなくてはならないと思っています」と、山脇先生。

大切にしているのは、女性と子どもたちそれぞれの自主性。出産においても診療においても、メリットデメリットすべてを話し、本人がどうしたいかを尋ね、その気持ちを尊重する。薬や手術で病気を治すだけでなく、患者の心に寄り添い、自ら元気を取り戻す方法、心身を健康に保つ方法を一緒に探す。子どもを産むのも病気を治すのも本人なのだから、医師やスタッフはそれを助けるだけ、という考えだ。

医療の現場では、予測できないことも起こりうるし、どうしても避けられないこともある。1 分 1 秒を争う状況では、経験から培った勘も大事だという。

「休みの日でも気になりますし、いつも考えています。連絡が来てからでは遅いこともある。現場はきついですよ。でも一生懸命やっていれば絶対なんとかなると信じてやっています」

昨日のことは昨日のこと、先のこともあまり考えない。短い人生、今日やれることは今日やらなきゃという気持ちだが、山脇先生の今を作る。



自身を「健康オタク」と称する山脇先生。病院の 5 階まではいつも階段。スクワットも日課だ。テレビやインターネットで、「健康」「アンチエイジング」という言葉を見つければなんでもトライする。一時期流行った軍隊式トレーニングの DVD も持っているという。

体にいい食べ物も好き。主食は玄米、砂糖の代わりにはハチミツ。ヨーグルトにはみかんの皮を入れて食べ、お酢や海苔など、いいと言われるものはこまめに摂っている。

料理も好きで、最近のオフの日はずっと作り置き用の料理をして過ごす。得意とするのは、ボンデケージョというチーズのパン。パラグアイでもよく食べられているパンだという。



「赤ちゃんが生まれると、本当に涙が出るほど嬉しいんです。エネルギーをもらえて、それで疲れが吹き飛びます」

生まれ変わってもまた、産婦人科医になりたいと話す山脇先生。これまで家族には迷惑をかけたと反省をする一方で、後悔はなく、家族をはじめスタッフや関わる人皆に感謝でいっぱいだと語る。今後の未来も、持ち前の行動力と負けん気の強さでエネルギーに進み、地域の女性と子どもの健康を支え続けてくれるだろう。



まつしま病院